

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 大蔵 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 数学)

教科に関する調査(国語, 数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の3年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	問題形式において、「選択式」、「短答式」、「記述式」のいずれにおいても高い正答率を示していたが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」や「言語についての知識・理解・技能」に関する問題では、正答率がやや低下する傾向が見られる。
	よくできた問題	「書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える」問題では、高い正答率が見られた。
	努力が必要な問題	事象や行為などを表す多様な語句についての理解に課題が見られる。
数学	全体的な傾向や特徴など	問題形式において、「選択式」、「短答式」では、高い正答率を示していたが、「記述式」では、正答率がやや低下する傾向が見られた。「数と式」、「資料の活用」や「数学的な技能」に関する問題では、正答率がやや低下する傾向が見られる。
	よくできた問題	「関数の意味を理解する」、「図形の位置関係」に関する問題では、高い正答率を示していた。
	努力が必要な問題	「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」問題に課題が見られる。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣では、朝食が取れており、睡眠時間についても、比較的確保されている生徒が多い。基本的な生活習慣が確立されている傾向を示している。 いじめはどんな理由があっても人間として絶対許されない行為であるという正義感をもつ生徒が多いなど、高い規範意識が醸成されており、困っている友だちを積極的に手伝おうという意識も高い。 家庭学習において、自分で計画を立てて勉強する習慣が充分とは言えず、家庭での学習時間にも課題が見られる。 学校の授業では、課題の解決に向けて主体的に取り組み、話し合い活動でも考えを深めたり、広げたりする活動に積極的に参加することができている。 自分の考えをまとめたり、文章や話の組み立てを工夫したりすることに課題が見られる。 ICT機器を活用した学習に意欲や関心が高く、主体的に取り組んでいる。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 自分の考えをまとめたり、深めたりするために、「書く活動」の充実を目指して、授業の振り返りのためのワークシートである「大蔵Sheets」を各教科の実態に合わせて活用する。
- 一人一台タブレットを活用した授業づくり及び補充学習を推進する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習の量的、質的な拡充を目指して、学校から家庭への双方向の情報の共有を積極的に実施する。
- SNS等の利用に関して、各教科や道徳を中心に指導を進めている。外部から専門の講師を招聘して講演会を毎年実施する。
- 家庭での使用状況について、家庭との連携を深めながら、トラブルや健康被害の未然防止に努めていく。